

# 2018年度

## 水戸一高合格者インタビュー



- 後藤 駿太郎 くん (茨城大学附属中学校卒) 水戸一高・慶應湘南藤沢高・江戸川取手高(医科)・水城高(SZ) 合格  
小泉 佳奈海 さん (茨城大学附属中学校卒) 水戸一高・水城高(SZ)・葵陵高(医 TOP) 合格  
永井 美早 さん (茨城大学附属中学校卒) 水戸一高・水城高(SZ)・茨城キリスト高(SI) 合格

みなさん、水戸一高合格おめでとうございます。

Q 水戸アカデミーに通いはじめたのはいつですか。

A 後藤：ぼくは、小4の2月からです。

小泉：わたしも、小4の2月からです。

永井：わたしは、小4の3月からです。

Q 水戸アカデミーに通塾して、良かったこと、大変だったことを教えてください。

A 永井：大変だったことは、まわりのみんなは出来ているのに、自分だけ出来ていない、という劣等感を感じたことです。

小泉：学校の宿題と、塾の予習を両立するのが大変でした。良かったことは、学校では教わらないような、問題の解き方などを教えてもらえたことです。

後藤：良かったことは、勉強の習慣が身についたことです。大変だったのは、英語の授業では毎回、単語や熟語などのテストがあるので、それを完璧に覚えるまで練習するのが大変でした。

Q 水戸アカデミーの予習主義について、予習の意味や意義についてはどう思いますか。

A 永井：自分でいろいろ調べたりする習慣がつくことが良かったです。

後藤：何も習っていない状態で問題を解くので、自分ができる問題とできない問題がはっきりして、授業のときにメリハリをつけて問題に臨むことができる場所だと思います。

小泉：自分で予習してから授業を受けると、先生のおっしゃっていることが良く分かるので、何もしない状態で授業を受けるよりも、より深く理解することができると思います。



Q 後藤くんは早稲アカ難関クラスでしたが、授業はどうでしたか。

A 毎回ハードな問題を解いていたので結構大変だったのですが、気づいたらいつのまにか実力がついていて、難しい問題が解けるようになっていました。

Q 中学校の授業と、塾の授業はどのように違いましたか。

A 小泉：学校の授業は、基礎的な問題の解き方を教わるのですが、塾ではより応用的な問題の解き方を練習するかんじでした。

永井：塾の授業のほうが進度が早いので、塾で予習してから授業で教わったことを学校でもう一度習うかんじだったので、学校の授業がよく理解できました。

後藤：学校の授業は、生徒の理解のレベルの差が大きいので先生も平均のレベルに合わせて授業をしますが、早稲アカ難関クラスだと、一番上のレベルの生徒に合わせて授業を行っていくのが一番の違いでした。



Q 受験を通して、ハードだったこと・大変だったことはなんですか。

A 後藤：自分では十分やったつもりでもなかなか成績が上がらなかつたり、やっと上がったと思ったらすぐに落ちたり、模試での成績のアップダウンが激しくて、結局偏差値を一定にできないままに受験が終わってしまったので、それは今後の課題かなと思います。

小泉：まわりのみんなも一生懸命に勉強しているなかで、自分なりの勉強のペースがわからなくなってしまいうことがあって、ペースを維持していくのが大変でした。

永井：自習室をよく使っていたのですが、自分がやっている勉強法でいいのだろうかとか、まわりの人たちがどんな勉強をしているのかが気になってしまい、どんどん不安になってしまったのが大変だったことです。

Q それぞれ大変だったことはありますが、そのときに支えになったものや、励みになったものはありましたか。

A 後藤：模試などで、次のテストでいい結果を出すことを目標にして、気持ちを切り替えていました。

小泉：成績が良かったテストとかを思い出して、次も頑張ればきっと良い点数がとれる！と思ってやっていました。

永井：好きな音楽を聴いたりして気持ちを切り替えていました。

Q 後藤くんは首都圏の高校も受験しましたが、首都圏高を受験したきっかけは何ですか。

A 後藤：ぼくは中学入試で私立中に落ちてしまったので、高校入試でリベンジしたいと思っていて、結果的には高校入試では合格する事ができました。どうせならもっと難易度の高い学校も目指してみようと思って、中学2年のときに早稲アカ難関クラスができたので、首都圏難関校にも挑戦することにしました。



Q 慶應湘南藤沢高校に見事合格しましたが、最終的に水戸一高に決めた理由は何ですか。

A 後藤：大学付属校に進学すると自分がだらけてしまうと思ったので、大学入試を見据えて3年間がんばったほうが自分にプラスになると考え、水戸一高を選びました。

Q 私立高校入試の結果が出てから、県立高校入試に向かうまでの気持ちの切り替えはどうでしたか。

A 永井：私立高は思うような結果は出せませんでした。県立高に受かればいいだけじゃないか！と開き直りました。

小泉：私立高の結果は自分の中で悪くなかったと思っていたので、それを自信にして県立高入試に臨みました。

後藤：私立高校の入試後、気が抜けてしまって、県立高入試の1週間前くらいまでは勉強が手に付かない状態になってしまいました。入試直前最終特訓を受けたあと、さすがにこのままじゃまずいと思い、もう一度知識事項を完璧にできるように頑張りました。

Q 高校受験はみんなにとって大きな経験でしたが、受験を通して変わったことはありますか。

A 小泉：小学生のときは、なにかに向けて自分で勉強していくという意識は強くなかったけれど、高校入試に向けては、今やらなければいけないことを自分で考えて勉強するということが身についたと思います。

永井：私はいつも怠けてしまう性格なのですが、まわりが受験に向けてがんばっているのを見て自分もやらなきゃと思ったりして、自分でがんばれるようになったと思います。

後藤：やっぱり受験を終えて思ったのは、首都圏入試を全勝した人と僕とを比べると、受かりたいという気持ちの持ち方が、僕は少し弱かったのかなと思いました。この学校に絶対合格するんだ！という強い気持ちを持って受験するのが大切なんだなと思いました。



Q 最後に、後輩たちへのメッセージ・アドバイスをお願いします。

A 後藤：最後まで、絶対合格するんだという強い気持ちを持って勉強を続ければ、逆転合格というのは普通に起こることなので、最後まで志望校を下げずに頑張ってもらいたいと思います。

小泉：残り3ヶ月でがんばるとかではなくて、常に勉強を続けていくことが知識の定着につながると思うので、毎日の積み重ねが大事だと思います。

永井：受験が近づいたら、周りの目を気にせずに自分で決めた勉強をしっかりとやったほうがいいと思うし、塾でも先生でも自習室でも使えるものは何でも使ってがんばって欲しいと思います。



ありがとうございました。